

2016年度 理事長所信



清瀬青年会議所
第36代理事長 山崎 聖

2016年度 運動スローガン

「倦まず弛まず」

はじめに

恒久的な世界平和と明るい豊かな社会の実現を理想とし、20歳から40歳までの品格ある指導者であろうとする青年会議所は、人種・国籍・性別・職業・宗教にとらわれることなく入会することができる団体です。

東京都の多摩北部にあたる、緑豊かな大地と清流に恵まれた清瀬市に清瀬青年会議所が設立され本年で36年目を迎えました。今から36年前の清瀬市は、道路の拡張工事や緑地の整備、河川の拡張など日々、まちの様子に変化し、まちがより豊かにその姿を変えていったことを子供ながらに記憶しております。

人々の幸せを願い、青年会議所運動を継続してきた諸先輩の力強い足跡を本年度も清瀬青年会議所は、より一層進めてまいります。

私たちは、意識的に計画・実行・評価・改善を繰り返し、より良い未来を想像しています。明るい豊かな社会の実現をめざし、実行していく過程において、私たち青年には常に新しい視点から見る価値観の創造が必要です。我々の求める青年会議所運動において、どんな困難があろうとも辛抱強く努力して気を緩めることなく結果を求め続けましょう。成功の裏には10倍の失敗があるともいわれます。私たちは、「倦まず弛まず」の精神でその歩みを進めていかなくってはなりません。ネバーギブアップこそが、信じる道へ近づく最善の方法なのです。

次世代へ向けて

誰もが安心して子供を生み、幸せと喜びを感じながら子育てができる環境が徐々に整備されつつあり、次代を担う子供たちが、将来に夢と希望を抱き、心身ともに健やかに育ち、より豊かな生活を送ることができるようになってきました。

しかし、その一方、ライフスタイルの変化は目まぐるしく、現代社会では晩婚化・少子化等があり、青少年を取り巻く環境も私たちが育ったその時代とは、また違った状況にあります。我々は、青少年を取り巻く社会の現状とニーズを的確に捉え、青年会議所らしくJAYCEE にしかできない青少年育成事業を展開しなくてはなりません。好奇心による物事への探求は、人を成長させる原動力になると信じます。子供たちの自発的なチャレンジ精神・可能性を引き出すことは、いつの時代でも必要なことです。

現代社会の中で逞しく成長する力を養うためには、スポーツ競技を通じた青少年の心身の鍛錬、すなわち子供たちが真剣に努力し、厳しい勝敗の中にも、相手を思いやり、喜びや悔しさを分かち合える心を醸成するような青少年育成事業が必要です。継続事業である清瀬市内小学生を対象とした「わんぱく相撲清瀬場所」も本年で35回目となりました。例年、300名を上回る多くの小学生が参加する本事業をより一層充実させ、清瀬青年会議所として社会教育の場に参画する機会を増やし、次世代にむけて「人づくり」に注力し、より明るく豊かな未来を創造しましょう。

心地良いまちづくりを目指す

心地良いと感じる場所は誰しもが同じとは限りません。では、心地良いと感じられるまちとは何でしょうか。それはハード面からみた都市開発も必要な要素ではありますが、郷土愛の中に生れる心理的な部分が最も重要であると考えます。

多くの市民に、清瀬の魅力を知ってもらい、地域を愛する心を育みましょう。清瀬市も1年を通して、多くの「まつり」が存在します。「まつり」は何のために行っているのでしょうか。その多くは地域住民による地域の活性化や周辺住民との絆の創造という意味合いがあります。まちづくりを考えると、人と人との繋がりを意識し、地域住民の皆様と一緒に「心地よいまち清瀬」を開拓していきましょう。

また、2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催され、世界中から多くの人々が日本の東京都へ訪れることとなります。世界中の人々を最高の「おもてなし」で歓迎できるようなまちづくりを推進し、清瀬市の魅力を世界へ向けて発信していきましょう。

組織成長の為に

組織力は人の力によって確立し、連携と信頼によって成立しています。青年会議所の特色としては、各役職が単年度制をとっているところです。先輩は後輩を導いていくことも重要な職責であると考えます。青年会議所を卒業する40歳までの限られた時間の中で、メンバーが経験できることは、わずかではあります。翌年にそのバトンをつなぐことで、青年会議所運動はあたかも遺伝子の螺旋のように繋がっていき、すべては明るい豊かな社会の実現のために確実に前進していくのです。

コミュニケーションは人間関係を築くために重要な要素と考えます。まず、人の話を聞く姿勢・相手の話を引き出す能力を養いましょう。補助ツールとしては、電話・メール・SNSなどがあげられますが、同じ空間、同じ時間を共有しお互いの意見を尊重することが非常に重要だと考えます。相手を思いやる心の豊かさ、個人プレーの限界点を知ることや、多くの同じ志を持つ仲間が存在が我々の運動には必要なのです。

会員拡大について

人を惹きつける力とは何でしょうか。人はそれを魅力と呼びます。人の魅力とは、容姿端麗であること、或いはプレゼンテーション能力に長けていることでしょうか。色々な要素がありますが、スポーツ選手で例えるならば、その人の沢山の苦しい練習の積み重ねと、真剣に向き合った日々の努力が、目指す結果となって表れたとき、感動と共に人はそれに惹きつけられるのです。

私たちが多くの人を巻き込み、共感できる運動を展開していきましょう。その先に清瀬青年会議所メンバーは魅力的な団体として認識され、おのずと結果に結びつきます。

青年会議所運動は、人と人の繋がりなしでは目的を達成することが困難です。事業の目的達成に向けてメンバー同士はもちろん、多種多様な人々と多くの時間を共有することになりますが、その過程で幾重にも織られた意見がより深い絆と学びの機会となります。

副理事長をはじめとする全てのメンバーが、会員拡大の意義・目的・必要性を理解し、臆することなく未来の同志へアプローチしていきましょう。

おわりに

「できるかできないかが問題じゃない。やるかやらないかが問題なのだ。」

青年会議所運動を続けている中でしばしば聞こえてくるフレーズです。

人は何かにつけて悩み、ためらいながら生きる動物であり、それは人間として大切な防衛本能であると思います。しかし、我々はJAYCEEとして、率先して未来を切り開き、開拓者として自らを律し、品格ある青年でなくてはなりません。やれないと諦めることは簡単です。その先に何があるのでしょうか。挑戦する魂を磨いていきましょう。実現が困難な事業をやりきったあとの充実感や高い目標に達成した時の充実感をメンバー全員で共有しましょう。各自が未来に描くイメージを持ち、その目的を達成するには何が必要なのか考えていきましょう。

2016年度清瀬青年会議所運動は生涯で一度きりの運動になります。メンバーとともに、このまち清瀬で必要とされる清瀬青年会議所であるために尽力してまいります。

今後とも、どうか心暖かくお支えいただき、ご指導ご鞭撻等いただくことを心よりお願い申し上げます。